



公益財団法人 大阪対がん協会

〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69
大阪国際がんセンター 患者交流棟 2F
TEL 06-7777-3565 FAX 06-6585-0353
E-mail: office@osakacancer.jp HP: <http://www.osakacancer.jp>

がん研究助成奨励金

今回も若手研究者・医療従事者
15人に贈呈

がん研究助成奨励金は、がんの予防と治療に役立つ研究や取り組みに従事している個人やグループを助成・奨励するもので、今回が65回目。若手育成を目的とし、応募資格は「基礎」「臨床」「疫学（社会医学）」は満40歳未満、「看護等（緩和ケア・リハビリ等）」は満45歳未満の研究者・医療従事者に限っています。

2024年度は、44人から研究計画の応募がありました。選考委員13人の審査結果をもとに令和7年2月17日に開かれた選考委員会（委員長＝松浦成昭・協会長）で受賞者15人を選びました。受賞者は今回で延べ1805人、研究助成奨励金の総額は4億3360万円になっています。



贈呈式では、松浦会長が受賞者の皆さんの業績を評価すると共に、今後の活躍に期待しますと挨拶されました（写真右）。続いて受賞者一人一人に松浦会長から賞状が手渡されました。

その後、受賞者を代表して、大阪医科薬科大学大学院看護学研究科大学院生の菅野 楓さんの挨拶がありました（写真左）。

(受賞者は2ページに掲載)

[illegible]

健康は 予防と検診の 二刀流

(公益財団法人日本対がん協会 2025年度がん征圧スローガン)

がんのリスクを下げるには禁煙、節酒、食事、運動などの生活習慣の改善、ワクチン接種による感染対策などの予防と、早期発見のための定期的ながん検診の受診が大切です。



2024年度がん研究助成奨励金 受賞者

【基礎】

(分野別、50音順)

氏 名	所 属	研 究 題 目	受賞回数
オカモト ナオキ 岡本 直樹	大阪大学大学院医学系研究科 組織再構築学 大学院生	膵がん血管内皮幹細胞の遺伝子発現解析による乏血性メカニズムの解明	1
キド カンスケ 城戸 完介	大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学 助教	成人型顆粒膜細胞腫に対する新規薬物治療の開発	1
タカダ ナオキ 高田 尚輝	大阪公立大学大学院医学研究科 整形外科 病院講師	滑膜肉腫のグルタミン代謝に着目した新規薬物療法の開発	1
タケダ トモヤ 武田 朋也	近畿大学薬学部 薬物治療学 講師	RANK-RANKL経路を標的とした骨肉腫肺転移治療法の開発	2
ナカヤマ ジュン 中山 淳	大阪国際がんセンター研究所 腫瘍増殖制御学部 研究員	がん特異的代謝経路を標的としたがん休眠機構の解明	2

【臨床】

氏 名	所 属	研 究 題 目	受賞回数
イケナガ ヒロコ 池永 寛子	大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学 病院講師	B型肝炎患者血清中脂肪酸代謝物の網羅的解析を用いた肝癌予測バイオマーカーの開発	2
カネムラ ヒロアキ 金村 宙昌	近畿大学医学部 内科学教室腫瘍内科部門 助教	HER2遺伝子変異陽性固形癌に対する抗体薬物複合体/分子標的薬併用療法の作用機序と耐性機序の解明	1
サトウ ゴロウ 佐藤 五郎	関西医科大学 腎泌尿器外科学 大学院生	膀胱癌に対する光免疫治療薬の研究、開発	1
タケウチ フウカ 武内 風香	近畿大学大学院医学研究科 病因病態探索学 大学院生	細胞診の新ツール：光散乱スペクトルとそのAI解析	1
モリグチ マコト 森口 慎	大阪公立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学 医員	タンパク質言語モデルを用いた同種造血幹細胞移植のHLA適合性評価と最適ドナー提案システムの構築	1

【疫学(社会医学)】

氏 名	所 属	研 究 題 目	受賞回数
イカワ トシキ 井川 俊樹	大阪国際がんセンター がん対策センター 医師・主査	大阪府におけるがん終末期患者の短期放射線治療利用に関するデータベース研究	1
シマツ ミズキ 島津美寿季	大阪国際がんセンター がん対策センター疫学統計部 レジデント	大阪府がん登録を用いた、がん医療提供体制の集約化・均てん化に関する研究	1

【看護等(緩和ケア・リハビリ等)】

氏 名	所 属	研 究 題 目	受賞回数
オオタ アリサ 太田 有咲	大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 大学院生	大阪府がん診療拠点病院における治療後のがんサバイバーへのケアに対する医療専門職者の実践と阻害要因	1
カンノ カエデ 菅野 楓	大阪医科薬科大学大学院 看護学研究科 大学院生	薬物療法中のがん患者が体験する症状クラスターの同定とQoLとの関連についての研究	1
フクシマ タクヤ 福島 卓矢	関西医科大学 リハビリテーション学部 理学療法士	化学療法誘発性末梢神経障害への新たな治療開発に向けた基盤的研究	2

がん医療 展望 vol.21

がん医療の変貌

がんの医療はこの数10年の間に非常に大きな変貌をとげました。かつて「不治の病」と言われた時代から、たくさんの方ががんを克服され、がんサバイバーとして活躍される時代を迎えて、がん医療に求められるものも変わってきました。

がんは1981年から我が国の死亡原因第1位で、毎年約100万人ががんにかかり、38万人ががんで亡くなっています。がんで亡くなる人は増加の一途をたどり図1のように死亡率は右肩上がりですが、年齢調整した死亡率（年齢割合を補正して高齢化の要素を除いた死亡率）は実の所、徐々に下がっています。一方、罹患率の増加は死亡率よりも顕著であり、年齢調整しても増加していたのですが、最近ようやく頭打ちになり始めています。すなわち、がんの罹患・死亡はともにずっと増え続けていますが、高齢化がなければ減少しているの、増加の主な要因は高齢化であることがわかります。がん患者の中で高齢者（65歳以上）は3/4を占め、半数近くが75歳以上ということからもご理解頂けるといいます。

がんはかつて「不治の病」と恐れられていましたし、今もそれを引きずっています。しかし、最近のがんの治療成績の向上はめざましく（図2）、最新の5年生存率（2014-2015年症例）ではがん全体で66.2%です。この数字は10年前の患者の生存率ですので、治療成績がさらに進歩している現時点では7割くらいあると推定されており、もはやがんは不治の病ではなく治り得る病気になりました。治療成績向上の要因は早期発見の増加とがん治療自体の進歩です。早期発見の増加にはがん検診受診率の上昇、画像診断の進歩が大きく寄与しています。がん治療の3本柱である手術・放射線治療・薬物治療はいずれも進歩が顕著であり、トータルとして治療成績向上に貢献しています。

多くのがん患者が死亡していた時代から、多くのがん患者が生存しサバイバーが増加している時代になり、がん医療に求められるものは大きく変わりました（図3）。治療成績の悪い時代には治すことが最優先であり、苦痛の軽減は二の次になっていました。しかし、今では苦痛を取る緩和ケアが何よりも重視されますし、万全の副作用対策で生活の質（QOL）の維持が重要と考えられています。かつては治すことに必死になっていて、その先のことは思いいたりませんでした。今は治療と同じくらい、あるいはそれ以上に元の生活にもどることが大切になりました。元の生活にもどるといのは平凡なことですが、食べたり、動いたり、話したり、人と交わったりできることがあり、人それぞれに求めるものが異なり、それらのサポートも考えてあげる必要が出てきました。治療自体もかつてはほとんど入院治療が中心の時代から、放射線治療・薬物治療は外来通院しながらの治療に移りました。通院しながらの治療と言うことは毎日の生活を送りながらの治療であり、そのための配慮も必要になりました。また、かつては転移があったり、再発した患者の予後は数か月と言うのが普通でしたが、最近のがんをかかえながら長期間、生存する人も出てきました。サバイバーは「生存者」という意味ですが、がんをかかえながら生存している人も、亡くなるまではサバイバーであるという考え方です。言葉の問題はさておき、現在がんをかかえて治療しながら、毎日の生活を有意義に送っている患者さんはたくさんいるので、そういう人たちの支援も必要になりました。

図1 がん罹患率・死亡率の推移

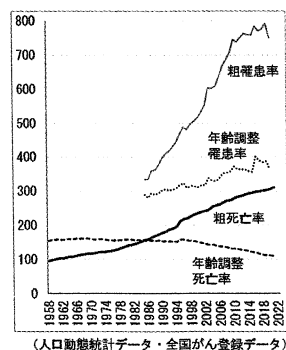


図2 がん5年生存率の推移

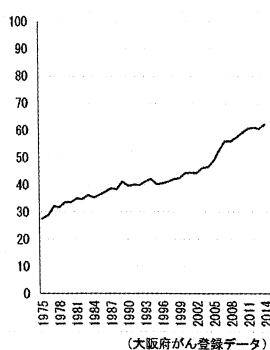
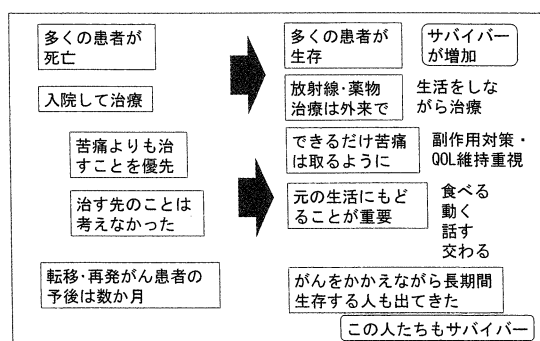


図3 がん医療の変貌



がん医療を行っている病院にはがん診療に加えて、地域でその人らしい生活を送るための支援を行うことが求められていますが、行政・地域社会も含めた連携が必要な時代になっています。皆様方も身近でがんの方がおられたら、様々な形でサポートをよろしくお願いします。

(会長 松浦 成昭)

会員のみなさま

賛助会員継続・会費お振込みのお願い

平素より、大阪対がん協会の活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。
大阪対がん協会は、従来から公益目的事業であるがん征圧運動に取り組んでいます。
また、がん患者さんの支援についても、令和7年度は、更に強化を図り、よりご期待に応えられるよう、取り組んでまいりますので、引き続き温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。
つきましては、令和7年度についても賛助会員の継続をお願い申し上げます。
賛助会員の会費のお振込みは、同封の「払込取扱票」をご利用ください。なお、振込手数料は、誠に恐縮ではございますが、ご負担をお願いいたします。
時節柄、皆様におかれましては、ご自愛いただきますようお願い申し上げます。

日本対がん協会の「がん検診無料デジタルクーポン」プレゼントキャンペーン

会員の方でご希望の方は、下記 URL 又は QR コードからお申し込み下さい。
発行枚数に限りがございますので、ご希望の方は、お早めにお申し込み下さい。
※ 前年度に受診した検診と同じ検診は受診できませんのでご留意下さい。

- 予約申込期限 2025 年 8 月 31 日
- 受 診 期 限 2025 年 12 月 31 日
- 申込フォーマット用 URL 又は QR コード

【子宮頸がん・・・7枚】

URL https://area31.smp.ne.jp/area/table/28964/chap0d/M?S=pdfk2letikb&27364_13138047_1=1&ex_type_27367_13138047=8&eventID=events2025015

QR コード



【乳がん・・・・・・7枚】

URL https://area31.smp.ne.jp/area/table/28964/chap0d/M?S=pdfk2letikb&27364_13138047_1=2&ex_type_27367_13138047=8&eventID=events2025016

QR コード



【肺がん・・・・・・7枚】

URL https://area31.smp.ne.jp/area/table/28964/chap0d/M?S=pdfk2letikb&27364_13138047_1=3&ex_type_27367_13138047=8&eventID=events2025017

QR コード



【大腸がん・・・・・・7枚】

URL https://area31.smp.ne.jp/area/table/28964/chap0d/M?S=pdfk2letikb&27364_13138047_1=4&ex_type_27367_13138047=8&eventID=events20250181

QR コード



【胃がん・・・・・・7枚】

URL https://area31.smp.ne.jp/area/table/28964/chap0d/M?S=pdfk2letikb&27364_13138047_1=5&ex_type_27367_13138047=8&eventID=events2025019

QR コード

